

# この科研で取り組みたいこと

三上直之

## ▼前科研における私の研究課題

1. 環境ガバナンスにおける、ミニ・パブリックス型市民参加の意義の解明【1～2年目を中心に】
2. 「協働の支援」プロセスの社会学的理解【おもに3年目以降～】
3. この科研の研究成果の発信方法【具体的には着手できなかった】

# 1.ミニ・パブリックス型市民参加の意義の解明

- 討論型世論調査、コンセンサス会議等の「ミニ・パブリックス」について、その環境ガバナンスにおける位置づけを把握し、プロセスデザイン上の意義と課題を解明
- ステークホルダープロセスとの緊張関係、「政策決定との接続」の多様な可能性を分析[報告①~③、論文①]
- 「柔らかい管理」と「堅い管理」(丸山 2013)をつなぐ「接ぎ手」としてのミニ・パブリックス[報告①]  
＝アイデアの提出のみで、深められなかった

# AGへの「接ぎ手」bridgeとなるものは何か？

	「堅い管理」の領域	接ぎ手	「柔らかい管理」の領域
環境保全におけるズレ (宮内編, 2013: 321)	科学的で「公共的」な環境保全	「複数の解と多様な道筋」	埋め込まれた環境保全
種差海岸の景観保全 (山本・塚, 2013)	「保護地域」制度 (とくに名勝)	ステークホルダーの参画による計画策定	観光関係者による草地中心の景観回帰の動き
横浜・新治の里山保全 (松村, 2013)	高度の説明責任・費用対効果を求める (新自由主義的)公共性	NPO法人化 (指定管理者へ)	ボランティアベースの「市民の森」の管理や学習活動
.....	...	...	...
デモクラシーの二回路	既成の政治システム(代議制民主主義)	ミニ・パブリックス型の市民参加	市民社会における(一般市民の)熟議
.....	.....	.....	.....
.....	...	...	...

# 新科研での展開

- AGへの「接ぎ手」となるものは何か
  - 「接ぎ手 (bridge)」に着目することで、
    - 「順応性以外の軸の探求」「順応性が鍵にならない分野」(宮内)
    - (順応性の下位カテゴリー(構成要素)についてはこれまでにだいぶ解明されたが)順応性と補完的・代替的な関係にあるのはどんな概念かなどの点への理解を進める一助とできないか。
- 今度の科研で、取り組んでみたい

## 2. 「協働の支援」プロセスの社会的理解

- 環境省の地方パートナーシップオフィス（EPO）による「協働の支援」のプロセスを対象とした事例研究
- EPO北海道（及び運営主体である北海道環境財団）による渡島大沼のラムサール条約登録を事例として分析。協働の支援のかたちとして、「寄り添い型」と「目標指向型」という2タイプを析出〔報告④、論文②〕

# 新科研での展開

- 渡島大沼におけるフィールドワークの継続。
  - テーマ案：論文②では脇役であったIMさん（現地ラムサール協議会会長）を主人公に、AGにおける移住者の役割を考えてみたい。
- EPO北海道のスタッフが行う、他の「協働の支援」の取り組みの事例研究（前科研の期間中に、一部ヒアリングしたものもある。他にも候補となりうる事例多数）を通して、AGの要件の理解を進める

### 3.この科研の研究成果の発信方法

- 4年前のキックオフで、次ページのようなアイデアを出したが、ほとんど何もできなかった。
- ふたたびアイデアだけになるおそれもあるが、今回、「映像」を活用する可能性を考えてみたい。

(前科研キックオフ (2012年7月) で使用したPowerPointから)

## 課題② 研究の社会的発信の方法

- 科学技術コミュニケーション
  - 研究過程・研究成果の、アカデミズム外への発信
  - 学術研究(の担い手)と一般社会との相互作用
- 商業出版に加え、様々な可能性を試行(する際の支援やコーディネート)
  - サイエンスカフェ
  - 住民参加型のワークショップ
  - プレスリリースや、新聞・雑誌への寄稿
- (環境)社会学や関連分野の「科学技術コミュニケーション」「アウトリーチ」のスタイルを探求



# 観察・記録の方法としての映像



- (1) 分藤大翼・川瀬慈・村尾静二編 (2015)『フィールド映像術』古今書院,
- (2) 山中速人編著 (2009)『ビデオカメラで考えよう：映像フィールドワークの発想』七つ森書館
- (3) 南出和余・秋谷直矩 (2013)『フィールドワークと映像実践：研究のためのビデオ撮影入門』ハーベスト社

# 観察・記録の方法としての映像

- フィールドでの出来事をビデオカメラで撮影し、それらを共有・集積する
- それ自体が、この時代に同時多発的に起こっているAG実践に関する貴重なアーカイブを構築することにつながる
- 「社会の順応性を発揮させることに資するツール」(宮内)の一つとして、可能性を探求してみたい。

# 前科研での主な成果

報告① 2013.10.13

「無作為抽出型の市民参加と環境ガバナンス」  
(第86回日本社会学会大会)

報告② 2013.11.17

「参加者は専門家に本当は何を「質問」しているのか～討論型世論調査における質疑応答の分析～」(第12回科学技術社会論学会)

報告③ 2014.7.15

“Public Participation and Deliberation about Nuclear Energy Policy: A Case Study of 'National Debate' after Fukushima Accident,”  
(18<sup>th</sup> World Congress of Sociology (ISA, Yokohama))

報告④ 2015.6.28

「「協働の支援」の二つの局面～北海道・大沼のラムサール条約登録の事例から～」(第51回環境社会学会大会)

# 前科研での主な成果

## 論文① 2015.02

Naoyuki Mikami (2015) “Public Participation in Decision Making on Energy Policy: The Case of the “National Discussion” After the Fukushima Accident” in Fujigaki.Y (ed.) Lessons From Fukushima: Japanese Case Studies on Science, Technology and Society, Springer, pp.87-122.

(エネルギー政策に関する政府DPの事例研究)

## 論文② forthcoming

「協働の支援における「寄り添い」と「目標志向」: 北海道・大沼のラムサール条約登録をめぐって」

(宮内編『どうすれば環境保全部はうまくいくのか』所収予定)